

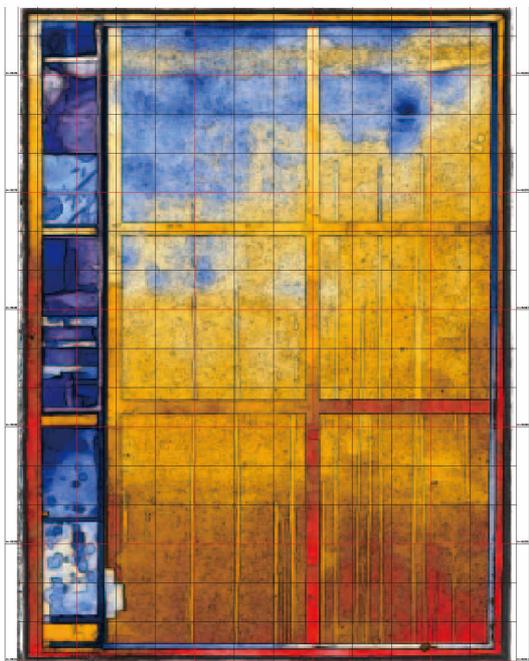
## 発掘調査の概要

### 藤原宮朝堂院朝庭の調査(飛鳥藤原第174次)

2012年4月2日より、藤原宮朝堂院朝庭の発掘調査を実施しています。本年度の発掘区は、一昨年(第163次)および昨年(第169次)の発掘区のすぐ東側に位置しています。朝庭の空間利用のあり方を検討するとともに、下層に存在する藤原宮造営期の遺構の実態解明を目的に調査を進めています。

これまでの調査で、朝庭は最終的に拳大の礫<sup>れき</sup>を敷き詰めて整備されていることがあきらかになっています。礫敷上には下層に存在する遺構が凹凸として現れていることが想定されるため、例年、礫敷をどのように記録していくかが課題となっています。そこで今回の調査では、3Dレーザー測量の方法により、礫敷上に現れた微地形や凹凸を立体的に記録することにしました。下に掲げた画像は、取得した標高データを、グラデーション状に色分けしたものです。赤い部分は標高が高く、青い部分は標高が低いことを示しています。発掘区北側には、後世の瓦敷の通路状遺構が帯状のラインとなって現れています。礫敷は全体的に南東から北西にむかって下降していますが、イレギュラーに陥没している場所が数カ所確認でき、その下層には遺構が存在する可能性が見込まれます。

こうした成果を踏まえ、7月からは部分的に礫を取り外し下層調査に着手しています。今後の調査の進展にご期待ください。(都城発掘調査部 廣瀬 覚)



朝庭礫敷面の標高グラデーション図(上が北)